県南家畜市場通信

令和7年6月号

『粗飼料不足の救世主！暖地型牧草で飼料増産』

まもなく梅雨に入り、長雨の季節に突入します。空模様が不安定な時期となりますが、体調管理に気を付けながら、安全に注意して、農作業に取組みましょう。

今回のテーマは、『**飼料増産**』です。異常高温の夏が２年続き、その影響と思われますが、収量が激減した草地を見かけます。

「１番草が思ったように取れなかった。これでは今年の牧草が不足する！」という方々へ朗報です。今号は今からでも間に合う、**初夏から夏に播種する暖地型牧草**を利用した**飼料確保策**を提案します。

暖地型牧草ってなに？

・暑い地域に適応した牧草類（暑さに強く、寒さに弱い）
・種類が多く、特性も多様
・ほとんどが**一年生**の作物
⇒これまでは、関東以西で利用されてきたが、
夏の暑さが厳しくなってきた東北で利用増加

注意 草種や品種によって利用特性が異なる

《主な品種》
・スーダングラス
・ミレット
・テフグラス
・ギニアグラス
etc…

・**最低気温10℃以上**
・**平均気温15℃以上で播種**
〈参考〉R2～6年平年値
・奥州市：5/26以降
・大船渡市：5/27以降
・住田町：6/5以降
・一関市：5/26～6/1以降

「草種や品種によって利用特性が異なる」って、どういうこと？？具体的に教えて！

「**スーダングラス**」や「**ミレット**」など一度は聞いたことがあるという人も少なくないでしょう。
R6年に県南地域で栽培した暖地型牧草について詳しく紹介します！

スーダングラス

---栽培の条件---
・品種選定：**茎が細い牧草型**を選ぶ（例：ヘイスーダン）
・ほ場条件：**排水不良地 ✕**
・収穫機械：**牧草体系でOK**（カッティングがベスト！）

【R６】成分値・千厩（乾物中%）
・CP：10.9%
・TDN：55.4%

6月		7月			8月			9月	
中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
		施肥、播種	約50日		1番草収穫	約30日		2番草収穫	

施肥量：N（窒素）４kg/10a程度
播種量：**７kg/10a**
✓**鎮圧をしっかり行う！**
⇒２番草の再生に大きく影響

✓**出穂前かつ草丈150㎝程度で収穫する**
⇒収穫の遅れは栄養価、嗜好性、再生力が大きく低下

---特徴---

○**雑草の被圧効果が高い**
…あっという間に草丈が伸びるので雑草が負ける。
○**収量性が非常に高く**、再生力が高い
…Ｒ６年一関の事例では**永年牧草※の約1.7倍**
※オーチャードグラス主体の牧草地（一関市千厩）における平年値の年間収量

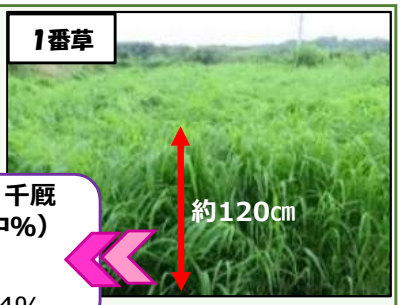
△他の一年生より**種子代が高価**…**２番草までしっかり収穫！**
△**K（カリウム）を吸収しやすい**…施肥や給与の工夫が必要

【R６】成分値・千厩（乾物中%）
・CP：12.4%
・TDN：59.2%

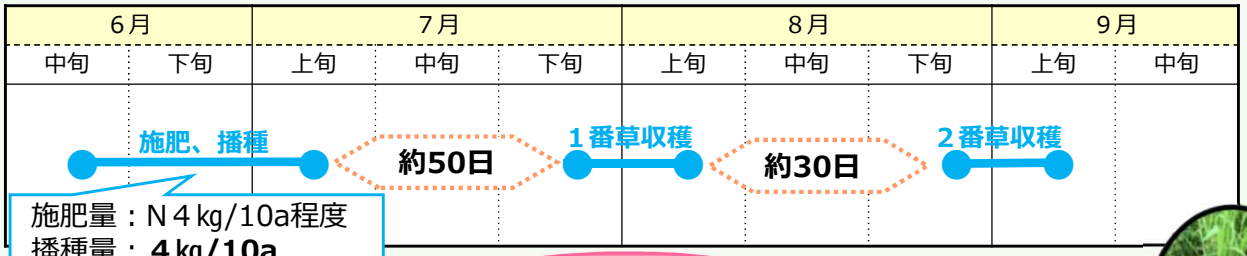
ミレット（ヒエ）

---栽培の条件---

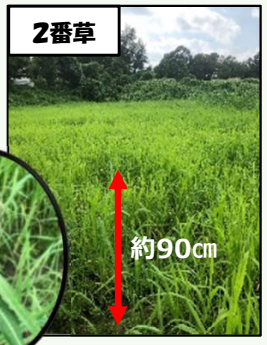
・品種選定：**ミレットの雑草化を防ぐ**ために、**越冬できない品種**を選ぶ
　　倒れにくい品種を選ぶ　（例：青葉ミレット）
・ほ場条件：**排水不良地** ○
・収穫機械：牧草体系でOK



【R６】成分値・千厩（乾物中%）
・CP：5.3%
・TDN：49.4%



施肥量：N４kg/10a程度
播種量：**４kg/10a**



【R６】成分値・千厩（乾物中%）
・CP：5.3%
・TDN：49.4%

緊急的・補完的に利用可能！
⇒収量は永年牧草の約1.1倍
（R６年一関の事例）

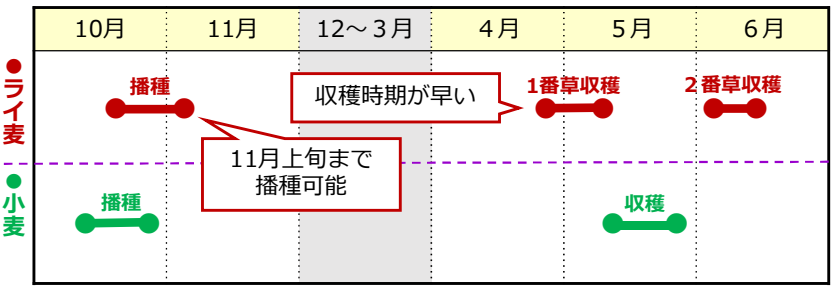
---特徴---

○**播種から収穫までが早い**
△**Kを吸収しやすい**…施肥や給与の工夫が必要

暖地型牧草の収穫後は、**永年牧草**が播種できます。（次年は牧草をしっかり確保できます。）
また、**「麦類との二毛作」**が可能です！夏の暑さに影響されない、**安定的な飼料の確保・増産**ができます！

・麦類（ライ麦、小麦）栽培スケジュール

※岩手県南地域



■播種量：７kg/10a
■ほ場条件：**排水不良地** ×
✓**極早生品種を選択**（例：春一番）
✓**出穂期に収穫する**⇒刈遅れは２番草再生力が低下

■播種量：６kg/10a
　➤クズ麦なら15kg/10a⇒**種子代が圧倒的に安い！**
■ほ場条件：**排水不良地** ×

繁殖サイクルを回してガッチリ *～見えない儲けをわしづかみ！～*

　第１回は、「繁殖管理は経営管理！」分娩間隔を短縮させてガッチリ儲けようという内容でした。
　今回は、分娩間隔短縮のための具体的な管理方法を紹介します。

県飼養管理マニュアルのダウンロード→

第2回　繁殖の記録

分娩間隔短縮⇒空胎期間短縮です。そのためには、
●分娩後初回授精日数を早めること、●授精後の再発情を見逃さず再授精すること、です。
どんなに忙しくても、やるべき繁殖管理を忘れないように「**記録**」しておくことが肝心です。
黒板、牛名板、繁殖カレンダー、スマホのアプリなど、どんなものでもOKです。

記録する主な項目は次のとおりです。
名号、生年月日、血統、分娩日、産次、授精日、妊娠鑑定結果、分娩予定日 など

また、次の記録及び観察もおすすめです。
①分娩後40日目　⇒　初回発情観察を念入りに。授乳している場合は、子牛の便の変化も観察する。
②分娩後60日目　⇒　過ぎても初回授精できていなかったら獣医師に診てもらう。
③次回（次々回）発情予定日　⇒　前後数日は念入りに発情観察する。
④授精後●●日目（※●●は妊娠鑑定できるようになる日数）
　⇒　過ぎたら獣医師に妊娠鑑定してもらう。

そして、「卵巣嚢腫になった」「２回治療した」「発情徴候を示さない」など、前回の受胎までの記録も残しておくと、その牛の傾向が分かって、とても参考になります。

分娩間隔短縮のために、「**記録と観察**」を徹底しよう！

お問い合わせは　>>　奥州農業改良普及センター　0197 35 8451　　一関農業改良普及センター　0191 52 4961